

いま、安倍政治の検証を

山口 洋司



4月の半ば、どのチャンネル見ても、万博とトランプの関税一色です。

万博は維新の会が安倍元総理を取りこんでカジノを含めたIRとセットの維新の威信をかけた政治的思惑いっぱいの負のイベントです。

気色悪い赤、青のキャラクターが画面を染めているのはうんざりです。赤い帽子の狂気のトランプも桜とともに満開、憂鬱の春です。

そんななか黒メガネの野坂昭如さんの最後の著『絶筆』を読んでいた。自他ともに認めるプレーボーイが脳梗塞で倒れ断酒して車椅子になったの2003年から12年間にわたる380ページにわたる闘病記です。

その日の天候から体調、食べたものが詳細に記されているのですが、その底流をながれている記述が神戸空襲で家を焼かれ、父母と妹を失い浮浪児になったいまわしい“あの過去”です。野坂さんの原点です。

そして、何より病の野坂さんをして目を離させないのが安倍政治の暴走です。新安保法制、特定秘密保護法への怒り、憲法を改悪しようとする安倍さんへの異議です。

著は12月9日、息をひきとる数時間前まで夫人の口述筆記で綴られます。最後はくこの国に戦前がひたひたと迫っていることは確かだろうと、締めくくられます。

10年前のことなのですが菅、岸田そして石破、と安倍政治がより危険な方向で膨らんで今日にいたっています。

読みながら思ったのですが、われわれはアメリカべったりの安倍政治をちゃんと総括してきたのか、国葬までやって崇める安倍政治を検証してきたのか、何もやれてないのではないか。安倍さんの亡霊のようなのが政界にも社会にも跋扈している今日です。

<若い党員は安倍さんを神聖化している>、友人のベテラン自民党員の弁です。

アメリカに迫られ事前に約束して国会で強引に通す新安保法制、集団的自衛権一。それを通すための歪めた人事、強引な国会対応、民主主義の破壊一。森友、加計問題、桜を見る会の不正などもまだ宙に浮いたままです。悪夢の最悪の政権でした。

わたしたちは今、それぞれが安倍政治をちゃんと検証してきっぱりと安倍政治の延長を立ち切る、その方策をみつけださなければならない時なのではないでしょうか。

野坂さんを偲びながら改めて思うのであります。